



2019年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.12th.2019



CONTENTS

1 2019年10月期 決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2020年10月期 業績見通し

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費
- 中期経営計画の進捗
- トピックス

2019年10月期 決算の概況

売上高は光学ガラスやナノセラム™の減少などにより減収、損益は生産設備の稼働率低下などにより減益

外部環境

- 世界経済は、全体としては緩やかに回復したものの、期末に向け景気に減速感
- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプ、レンズ交換式タイプともに需要が減少
- 露光装置市場は、FPD向けは弱含みで推移したものの、半導体向けは堅調

当社業績

- 売上高は、デジタルカメラ向け光学ガラスの需要減少や、耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」の販売減少などにより減収
- 営業損益は、生産設備の稼働率が低下したほか、上期に一過性の費用を計上したことなどにより減益
- 特別損益として、投資有価証券売却益及び関係会社整理損を計上

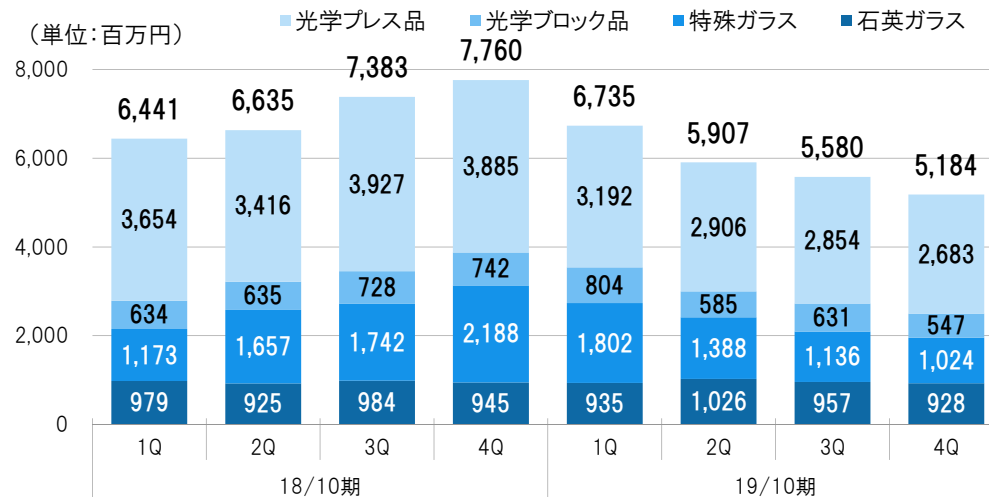
セグメント利益の 測定方法変更

- 19/10期2Qより、組織変更に伴い一部の費用の配賦方法を変更、19/10期通期における影響額は、光事業△211百万円、エレクトロニクス事業+211百万円

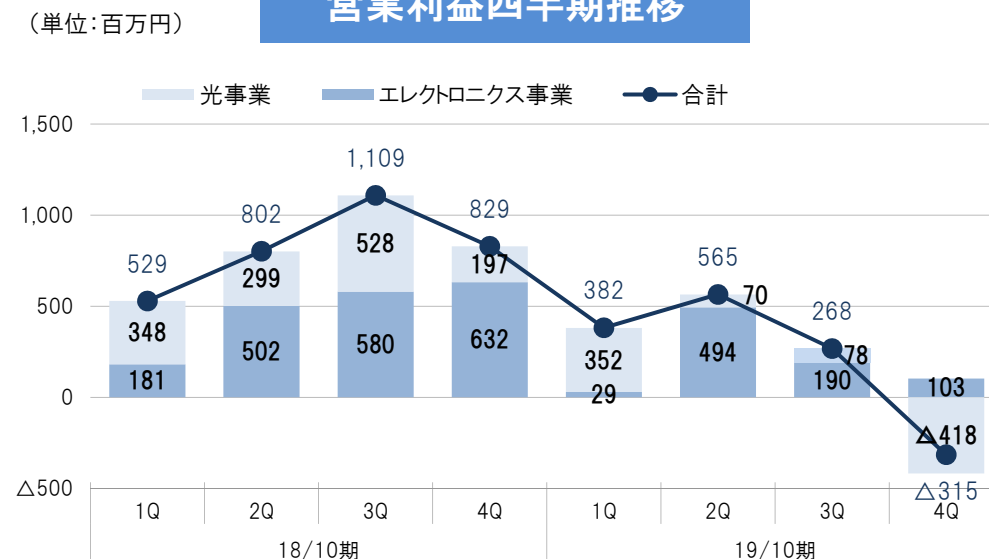
(単位:百万円、%)

	18/10期 通期	19/10期 通期	増減 増減率
売上高	28,221	23,407	△4,814 △17.1%
営業利益	3,270	901	△2,369
[営業利益率]	11.6%	3.8%	△72.5%
経常利益	3,705	1,146	△2,559
[経常利益率]	13.1%	4.9%	△69.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	3,220	466	△2,753
[純利益率]	11.4%	2.0%	△85.5%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 110.46 131.13	期中平均 109.68 123.30	

売上高四半期推移



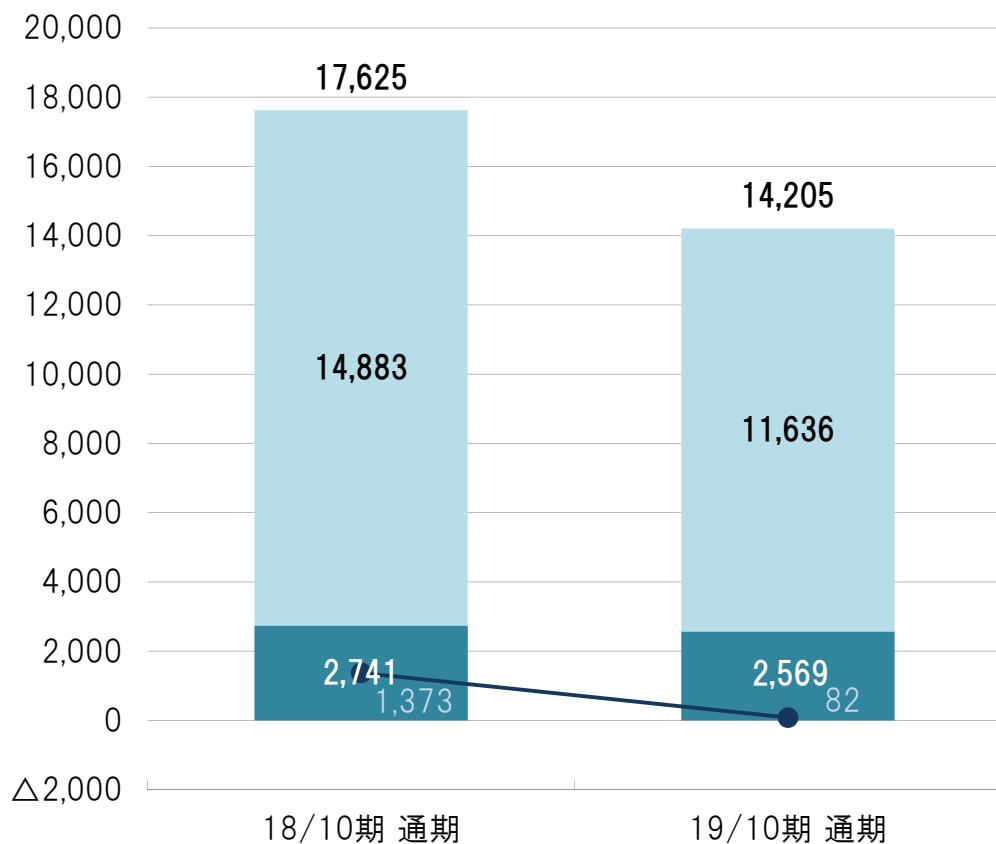
営業利益四半期推移



通期対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

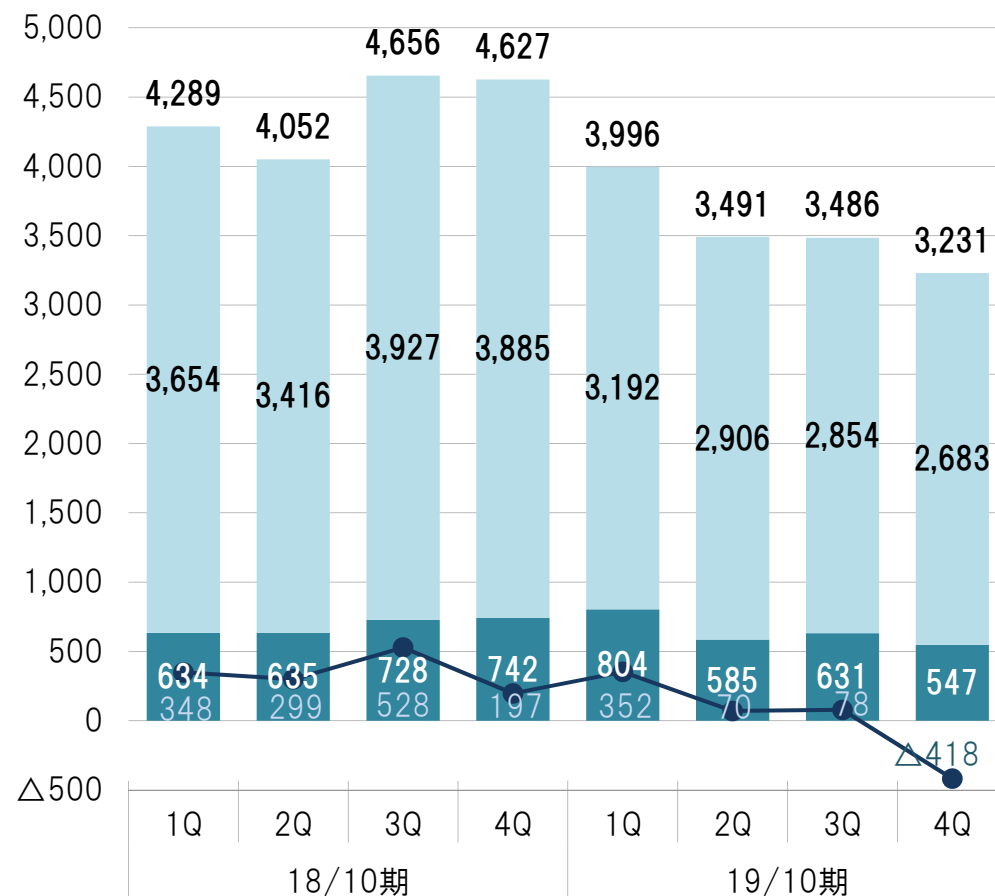
(単位:百万円)



四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

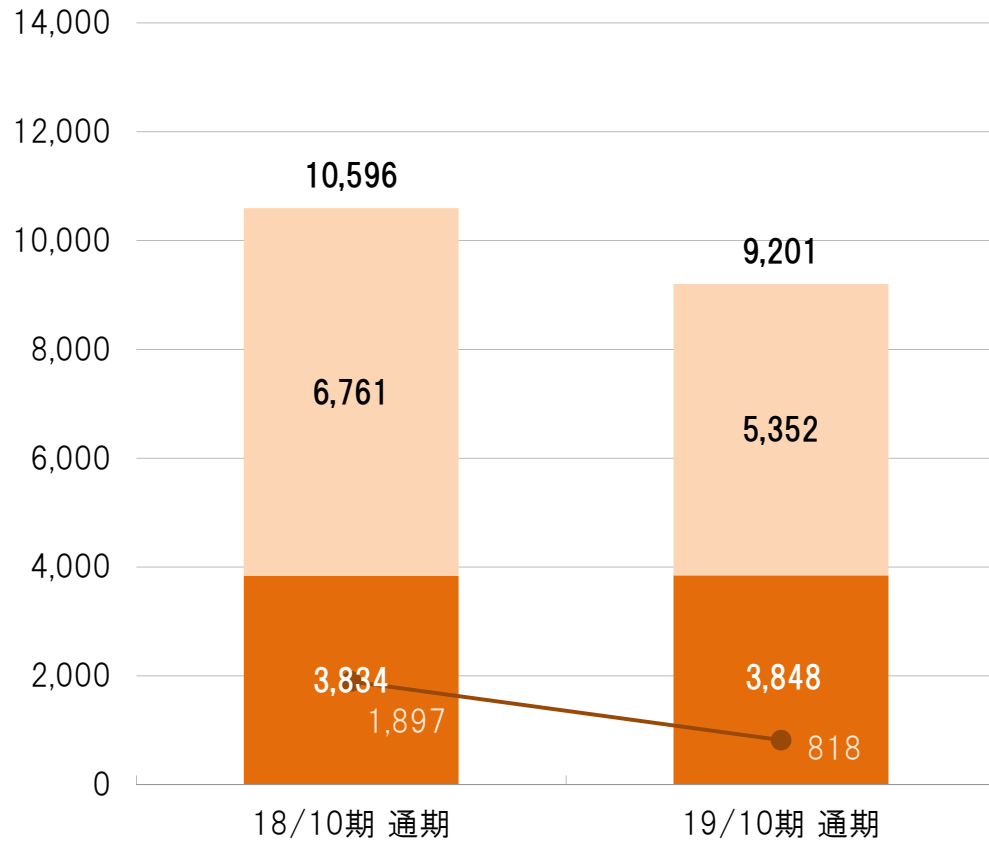
(単位:百万円)



通期対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

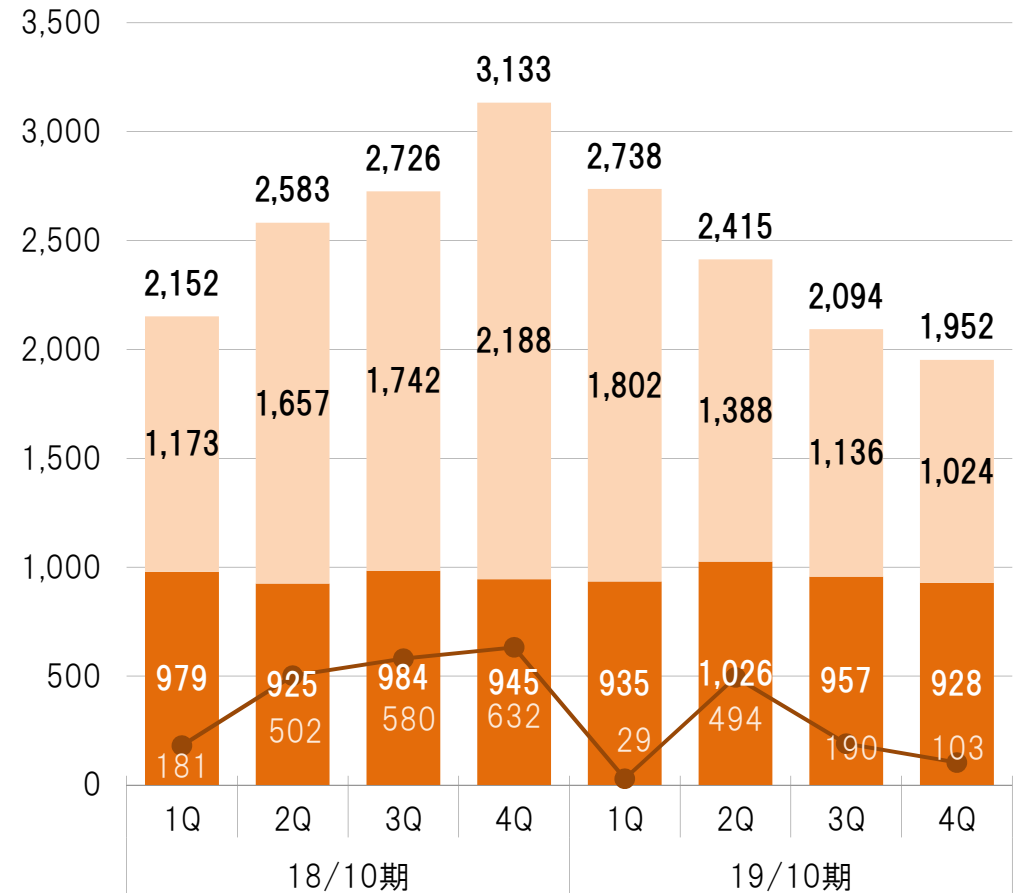
(単位:百万円)



四半期推移

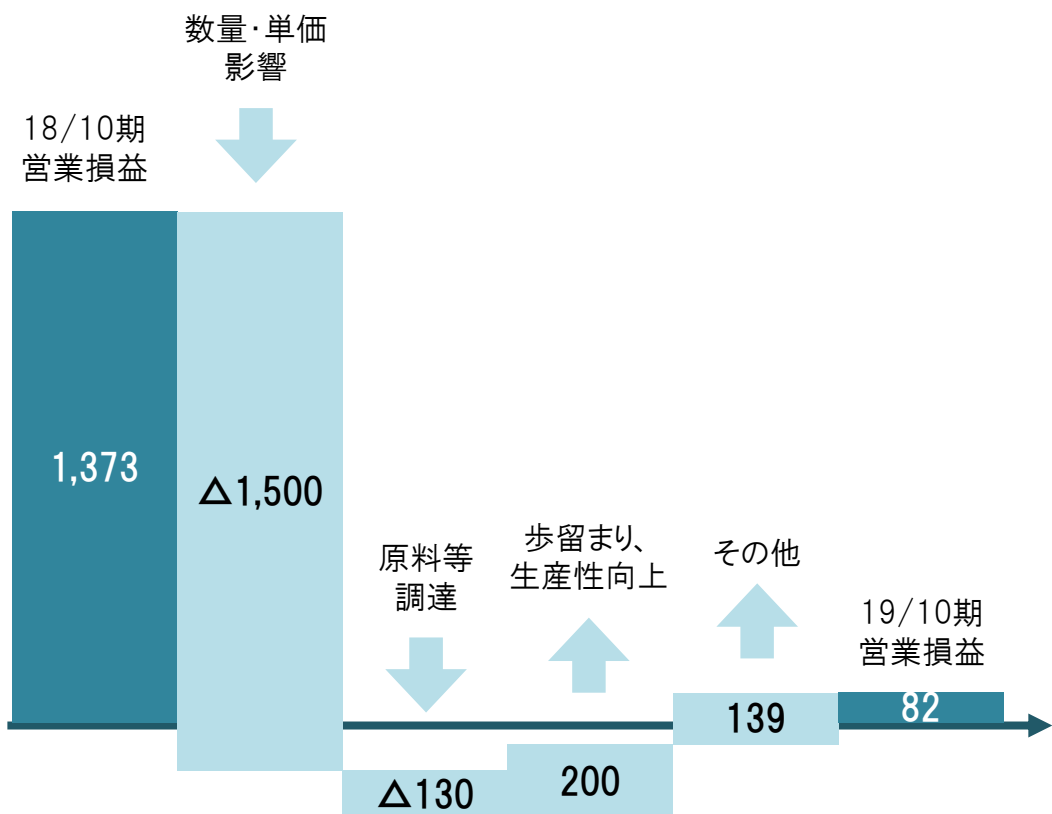
特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)



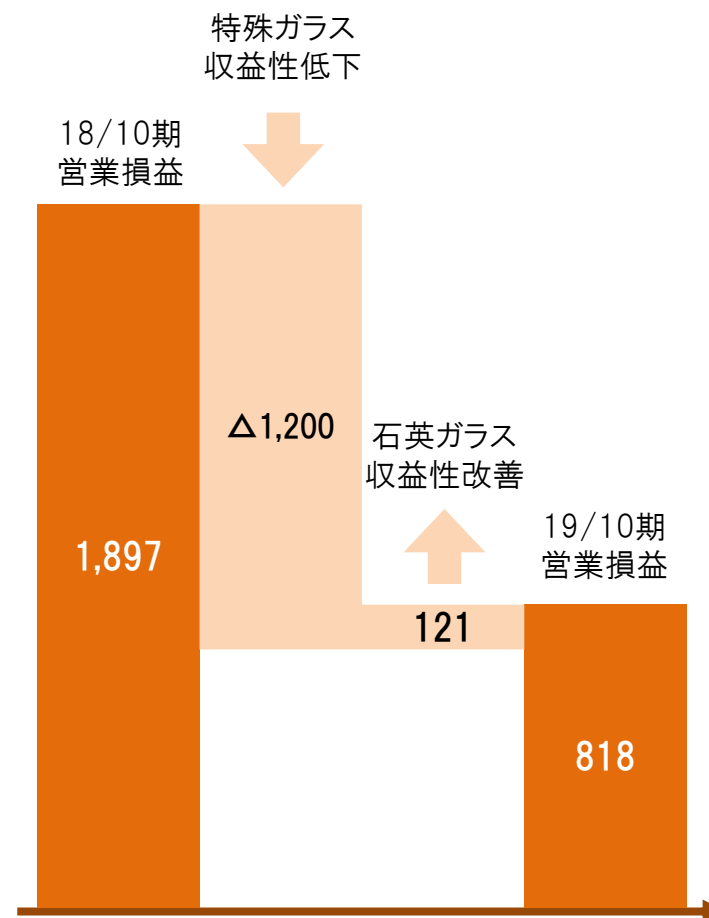
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純利益	1,661
減価償却費	1,664

投資CF増減主要因

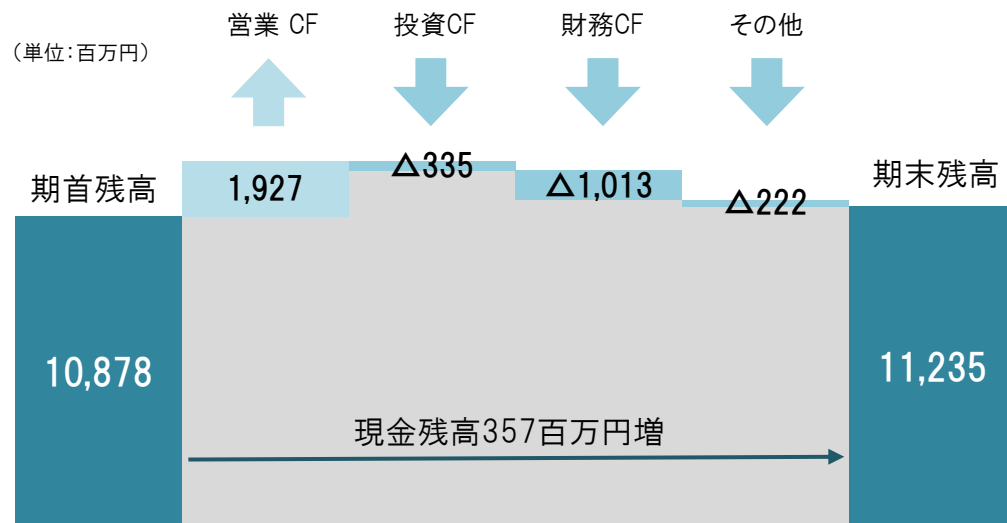
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△2,144
-----------	--------

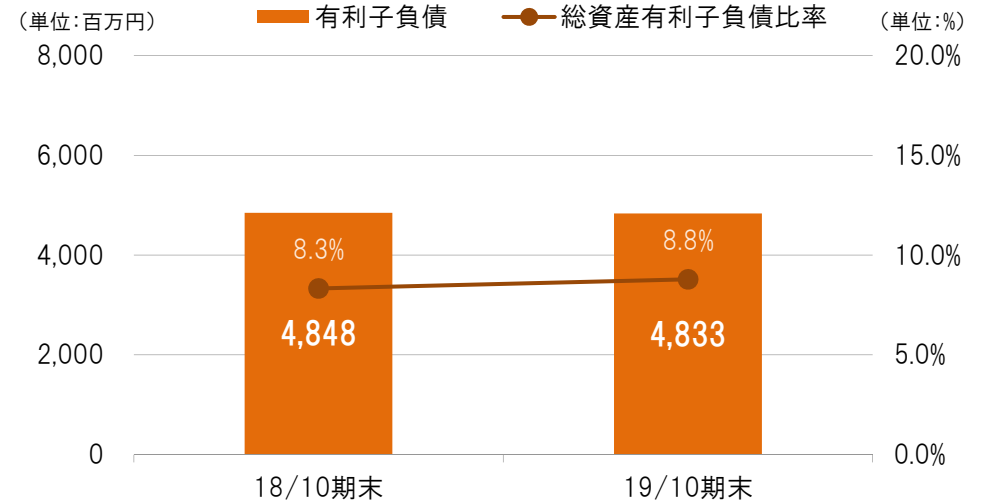
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

有利子負債の返済	△672
セール・アンド・リースバック	389
配当金	△730



有利子負債



※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」を遡及適用

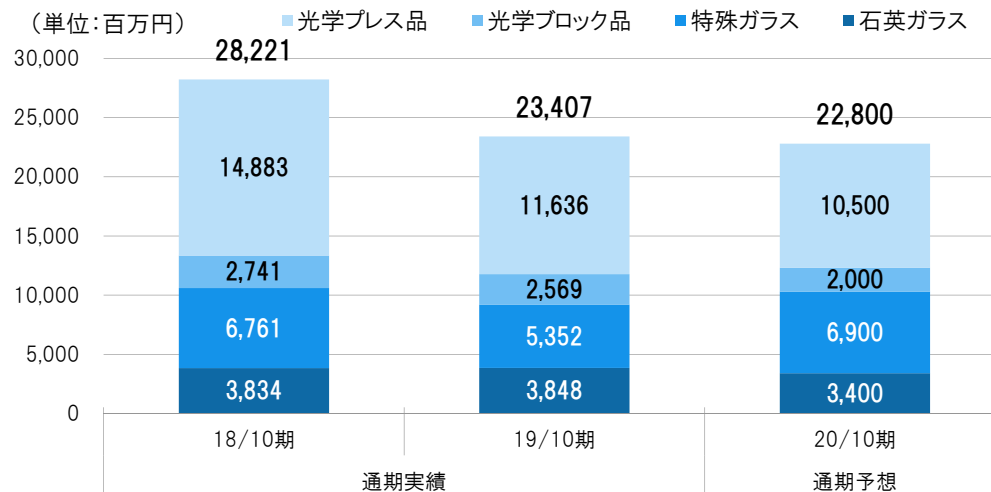
2020年10月期 業績見通し

見通しサマリー①

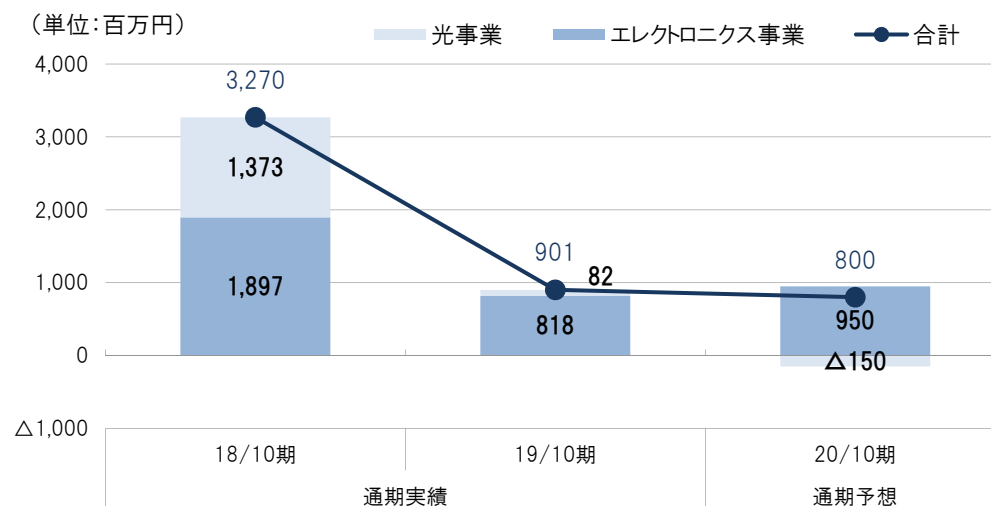
(単位:百万円、%)

	19/10期 通期実績	20/10期 通期予想	増減 増減率	20/10期 上期予想
売上高	23,407	22,800	△607 △2.6%	10,200
営業利益	901	800	△101	△500
[営業利益率]	3.8%	3.5%	△11.2%	△4.9%
経常利益	1,146	900	△246	△350
[経常利益率]	4.9%	3.9%	△21.5%	△3.4%
純利益 (親会社株主に帰属)	466	600	133	△550
[純利益率]	2.0%	2.6%	28.7%	△5.4%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 109.68 123.30	期中平均 105.00 120.00		期中平均 105.00 120.00
年間配当金 (円)	15.00	15.00		

売上高内訳



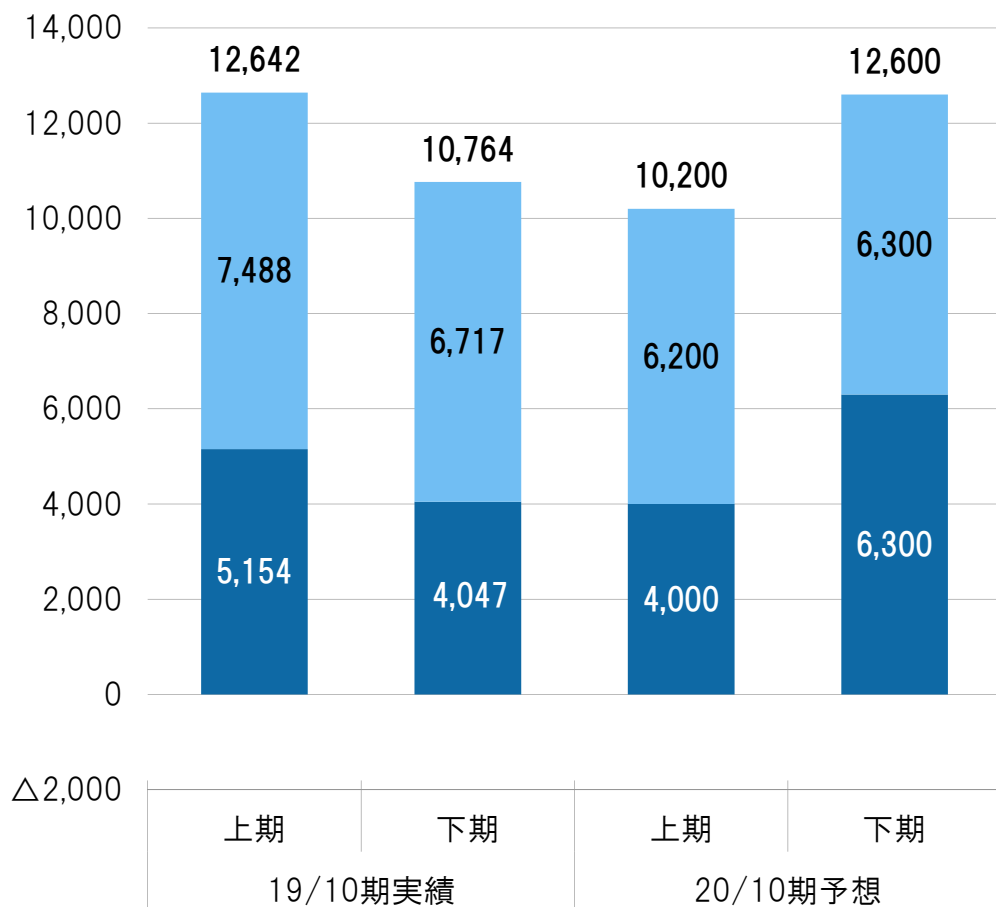
営業利益内訳



売上高

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業

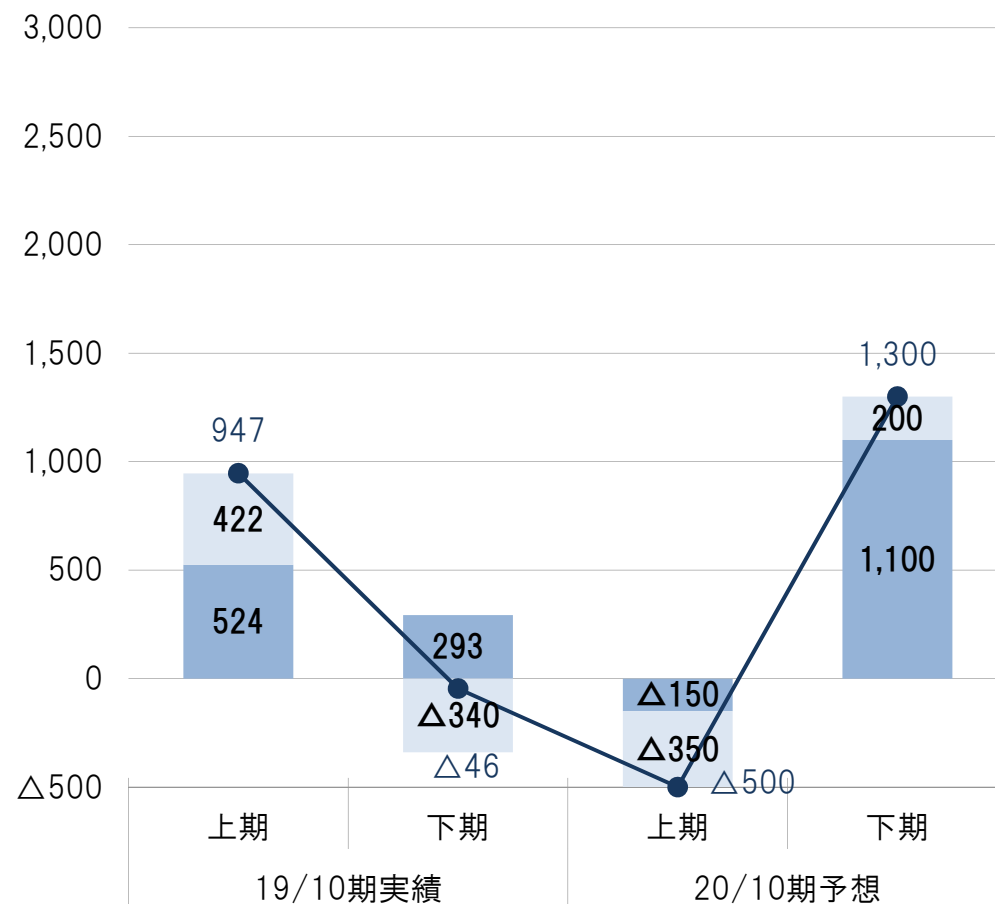
(単位:百万円)



営業利益

■ 光事業 ■ エレクトロニクス事業 ● 合計

(単位:百万円)



デジタルカメラ市場の縮小が続く中、レンズ加工品や新製品の拡販により、売上規模の確保を目指す

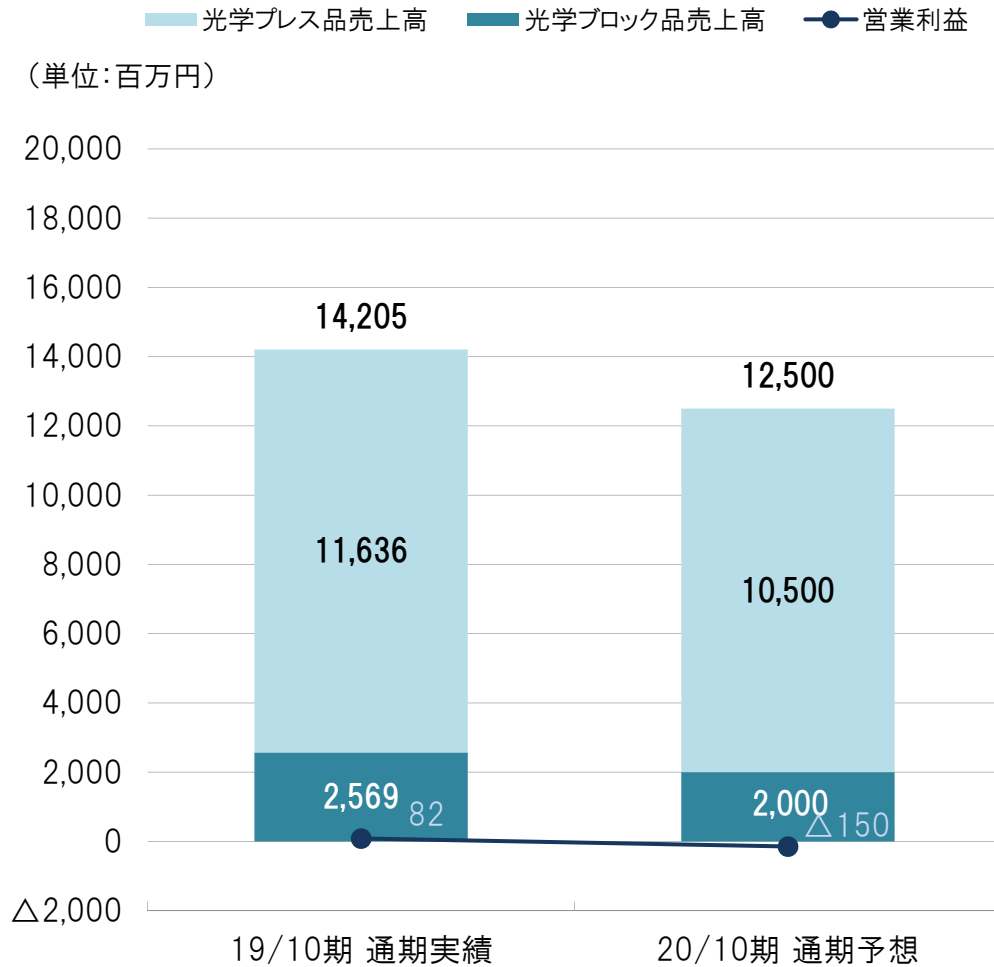
事業環境

- デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプ、レンズ交換式タイプともに需要の減少が続く見込み
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

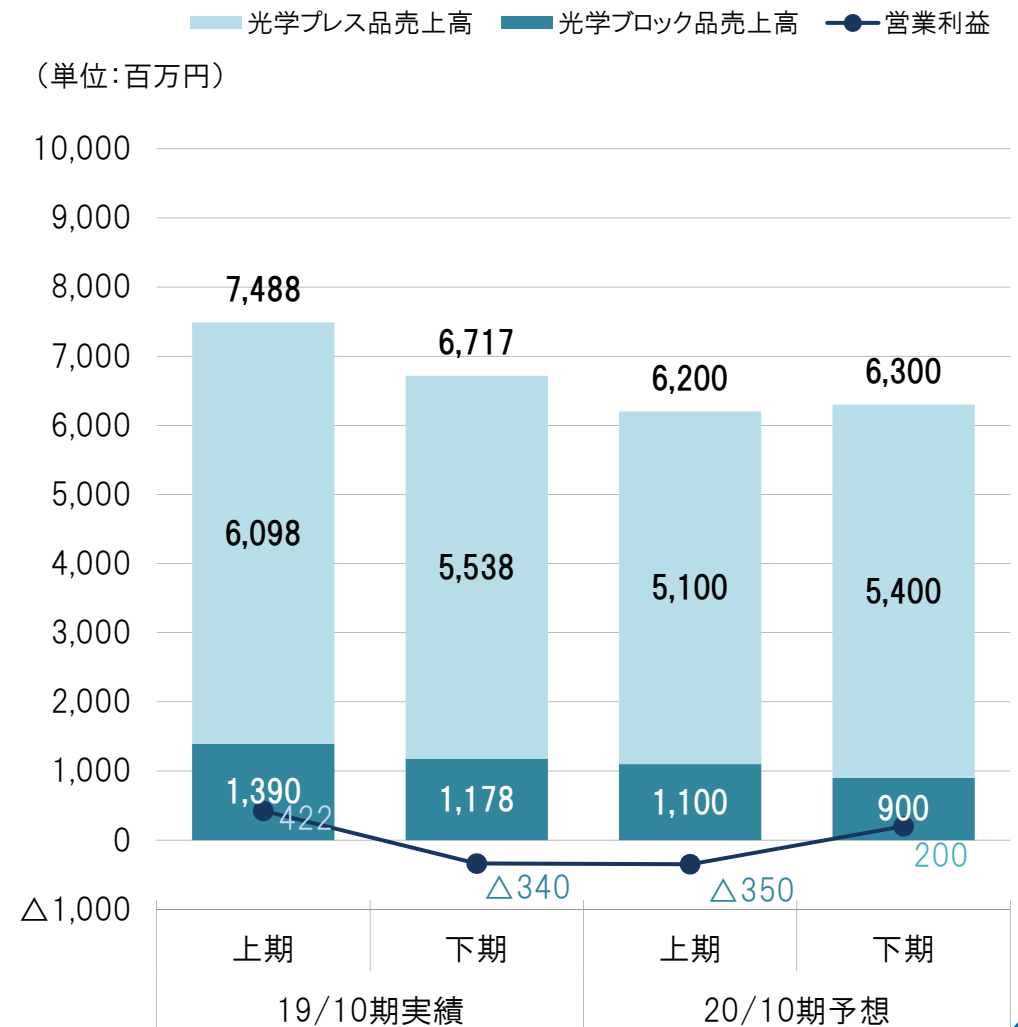
当社状況

- ガラスモールレンズ(GMO)など、レンズ加工品の販売比率を高めることで、高付加価値化を推進する
- デジタルカメラ以外の用途に向けたマーケティング活動や拡販活動を展開するとともに、こうした用途に向けた特徴的な新製品の開発を推進する

通期対比



半期推移



「ナノセラム™」は、顧客ニーズに対応した改良を迅速に進め、需要獲得を目指す

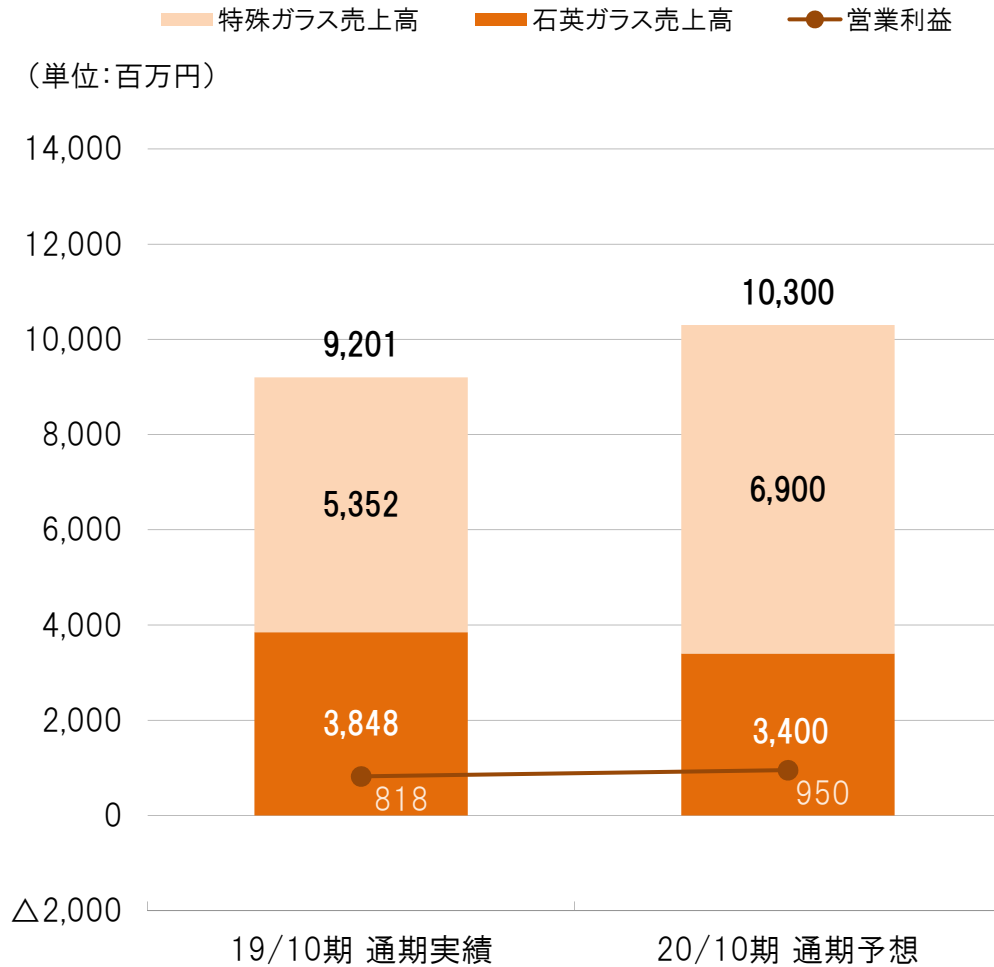
事業環境

- 露光装置は、通商摩擦の影響が懸念されるものの、半導体向け、FPD向けともに回復基調となる見込み
- 第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み
- 宇宙関連産業は、需要が拡大する見込み

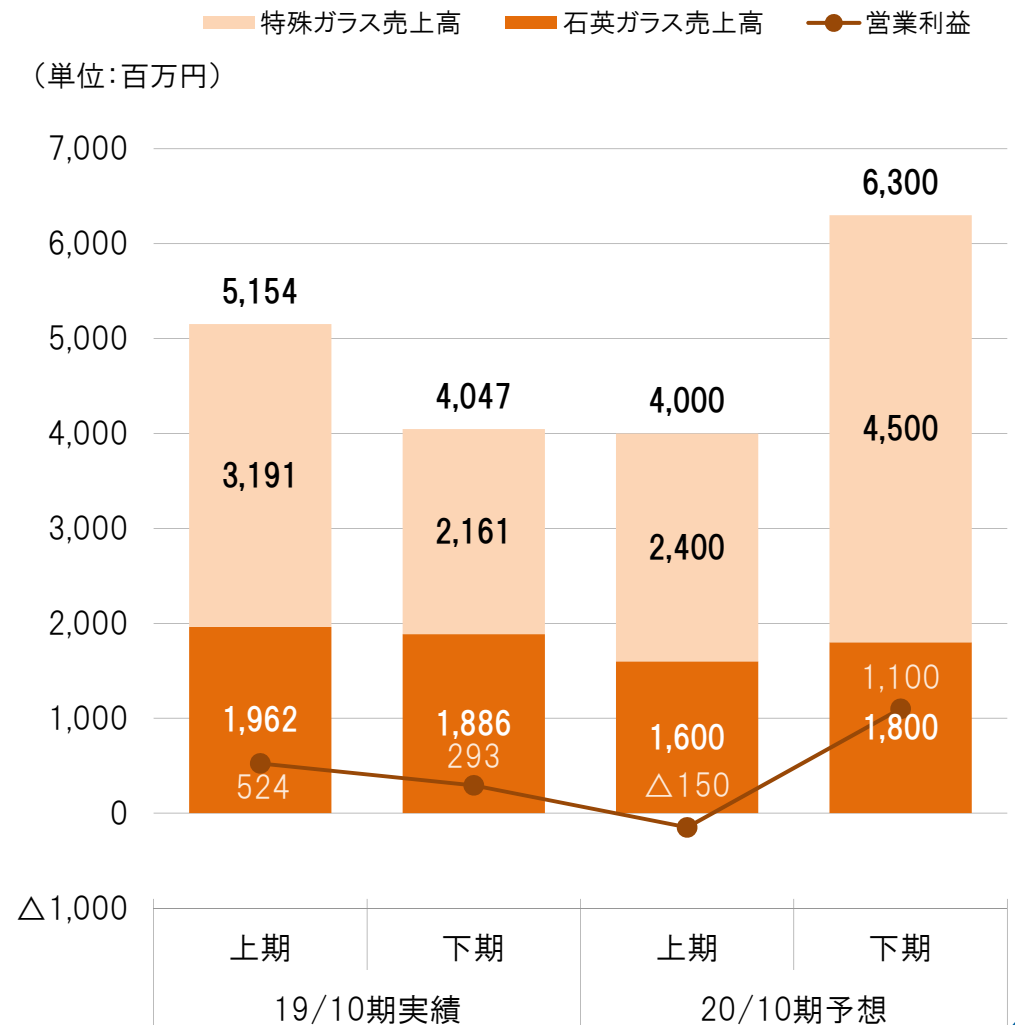
当社状況

- 「ナノセラム™」は、顧客ニーズに対応した改良を迅速に進め、需要獲得を目指す
- 露光装置、光通信関連及び宇宙・天文向けについては、需要動向を的確に捉えるとともに、アジア地域での拡販活動を強化する
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」は、全固体電池における実用レベルの特性実現を目指すとともに、液系リチウムイオン電池の正極向け添加材として、採用に向けた拡販に注力する

通期対比

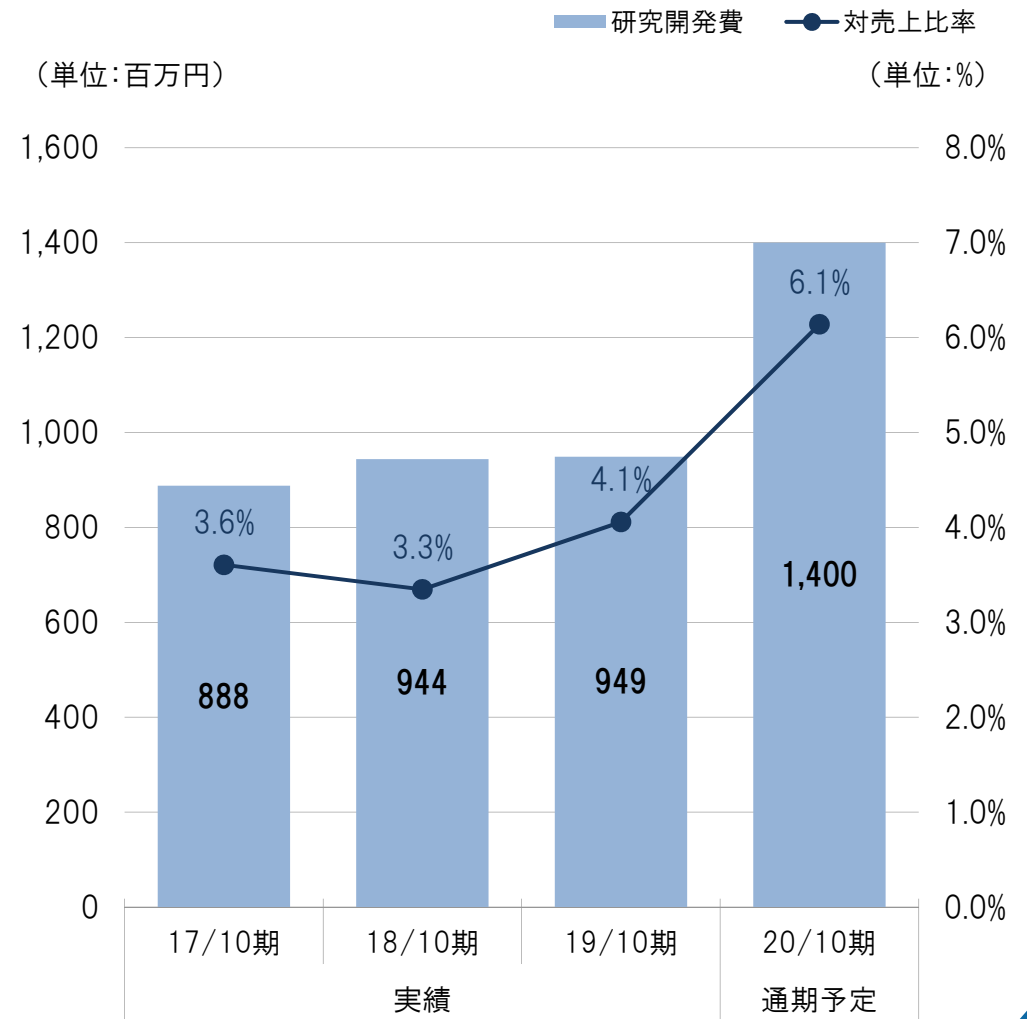
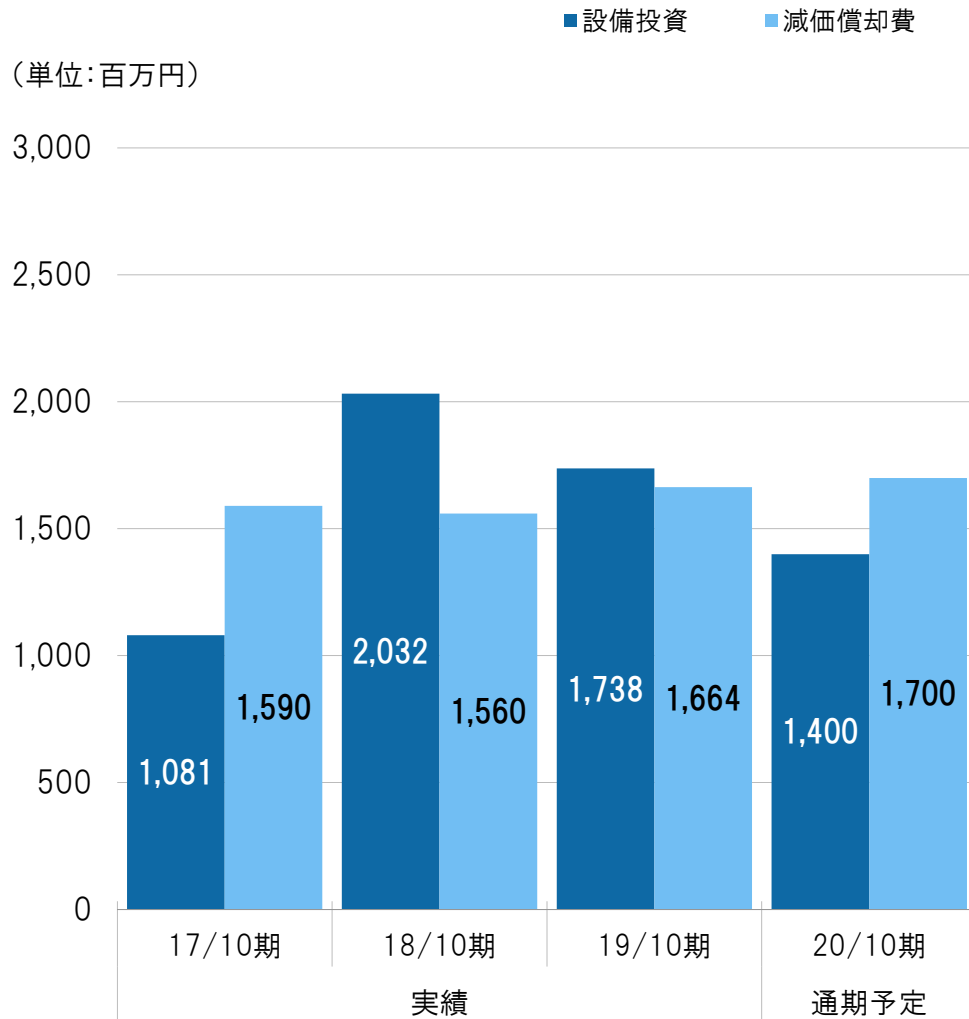


半期推移



設備投資、減価償却費

研究開発費



経営指標(20/10期)

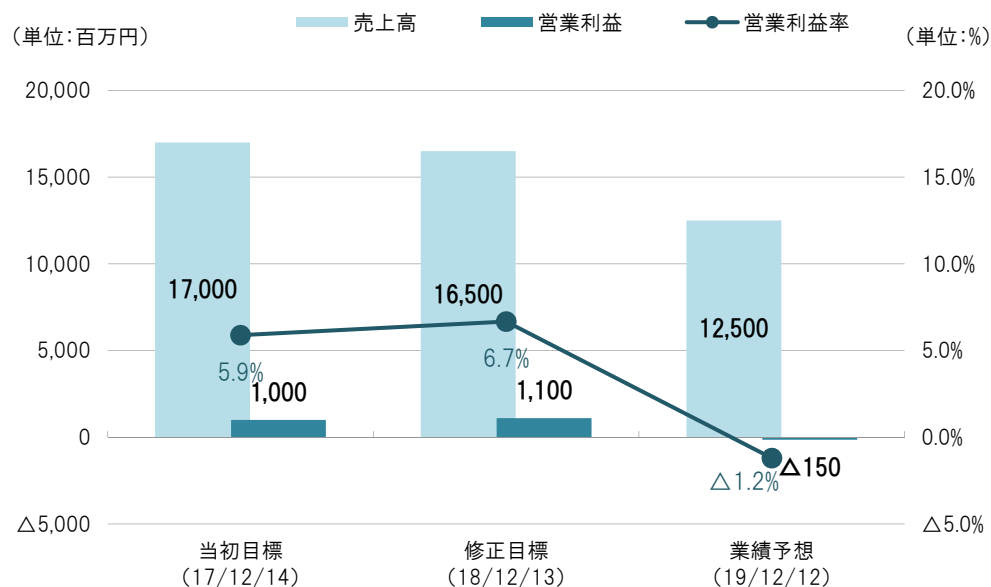
	当初目標 (17/12/14)	修正目標 (18/12/13)	業績予想 (19/12/12)
売上高	300億円以上	300億円以上	228億円
営業利益	24億円以上	35億円以上	8億円
自己資本利益率(ROE)	5.0%以上	8.0%以上	1.4%
総資産有利子負債比率	8.0%以下	8.0%以下	9.0%
エレクトロニクス事業 売上高比率	40.0%以上	45.0%以上	45.2%

※前提条件 (18/12/13)

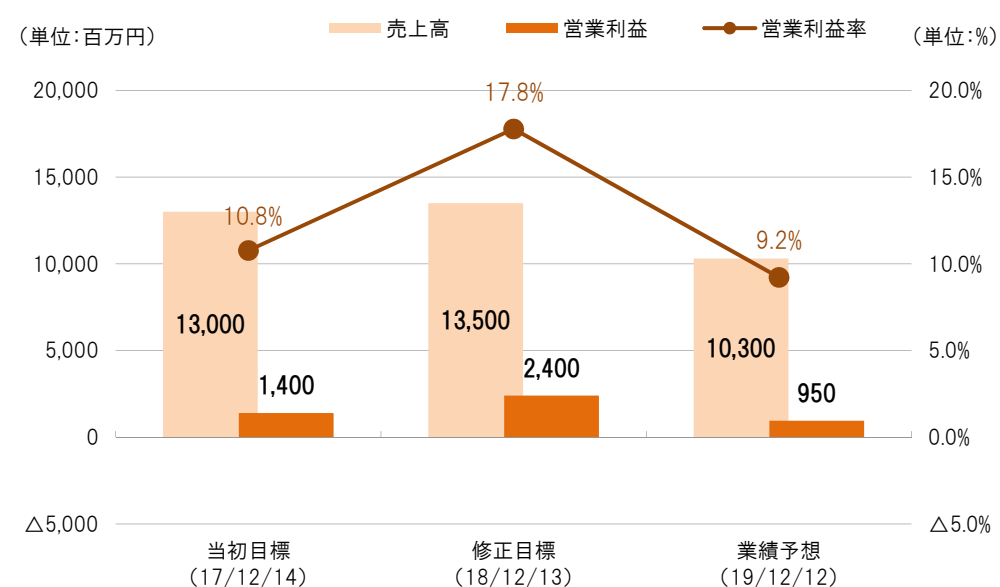
米ドル 110 円、ユーロ 125 円

- 光事業の関連市場
 - ・デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により、18/10期は堅調に推移したものの、19/10期以降は伸び悩み
 - ・プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大
- エレクトロニクス事業の関連市場
 - ・半導体露光装置の需要は引き続き好調に推移するものの、FPD露光装置及び光通信関連機器は在庫調整が続く

光事業(20/10期)



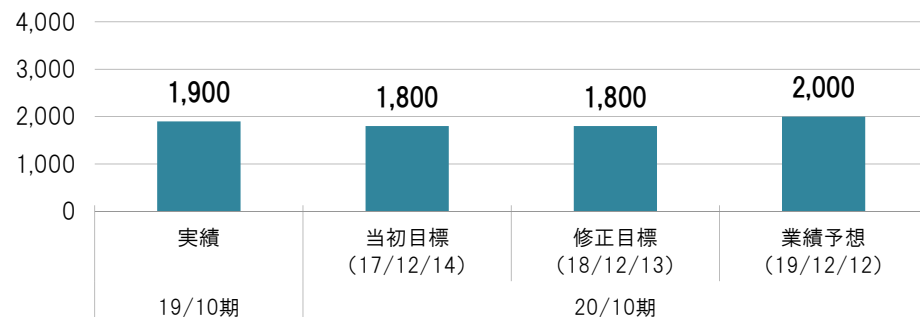
エレクトロニクス事業 (20/10期)



光事業

光学ガラス新製品の売上高目標

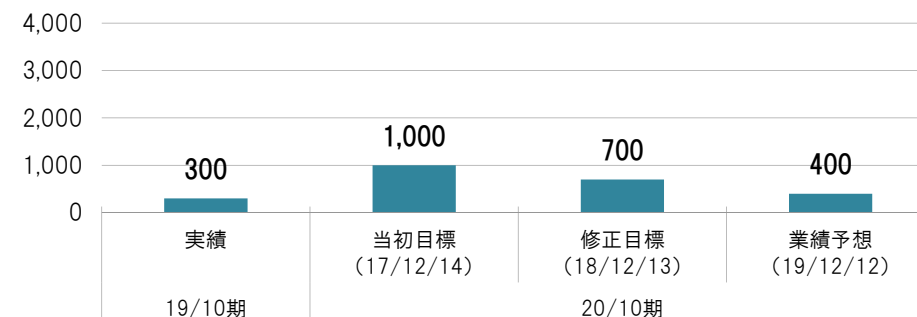
(単位:百万円)



※車載カメラ向け以外の新製品も含む

GMO (ガラスモールドオプティクス) の売上高目標

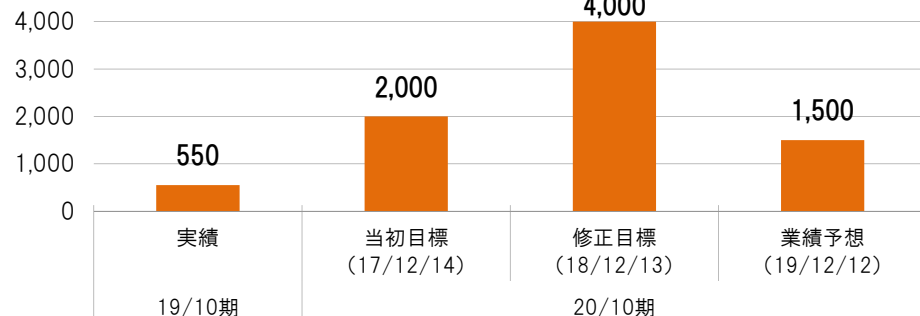
(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

ナノセラム™の売上高目標

(単位:百万円)

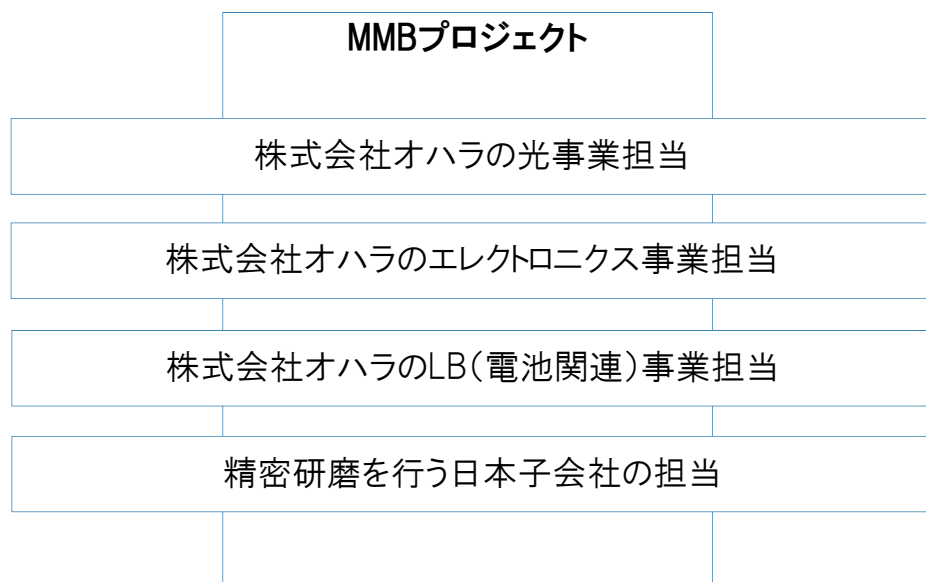


- 光学ガラス新製品は、着実に需要を獲得しており、目標を達成する見込み
- GMOは、技術的評価は高いものの、デジタルカメラ市場縮小に伴う需要減少により苦戦
- ナノセラム™は、スマートフォン筐体向けで、評価項目の仕様変更への対応により商流の確立が遅延、量産試作評価は進展中

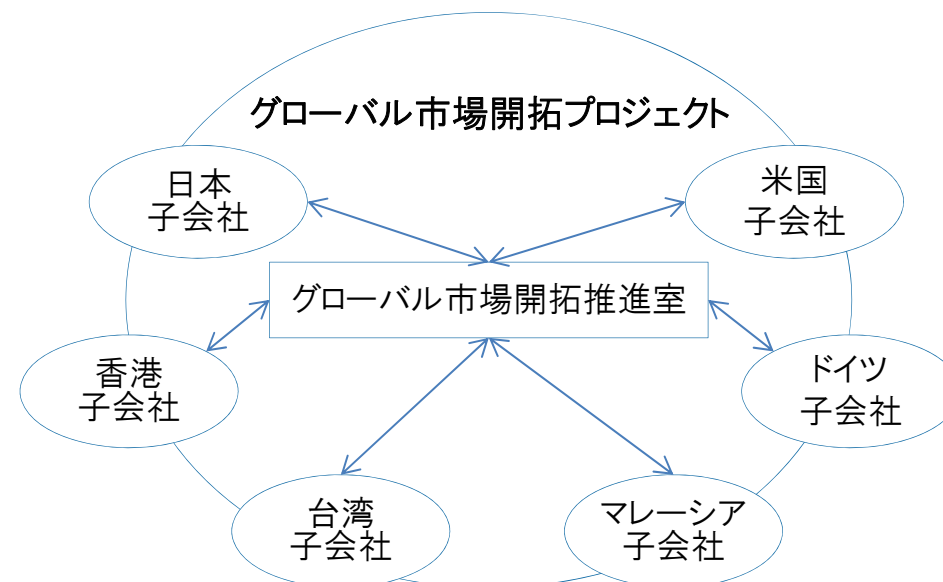
専任組織「グローバル市場開拓推進室」を設置し、成長戦略の加速と実効性向上を推進

- 2017年11月の中期経営計画策定時に、全社横断型新市場共創の場として「MMBプロジェクト」を発足、モバイル・モビリティ市場へのアプローチを実施 (MMB: Mobile Mobility Battery)
- 2019年11月に新市場開拓や新用途開拓を行う実行部隊として「グローバル市場開拓推進室」を新設し、この下で「MMBプロジェクト」を「グローバル市場開拓プロジェクト」に再編、活動範囲を中国その他海外未開拓市場に拡大するとともに、グループ会社メンバーもプロジェクトメンバーへ選任

従前(2017年11月～)



今後(2019年11月～)



顧客ニーズに対応した改良を迅速に進め、需要獲得を目指す

- 目下の最重要課題は、スマートフォン筐体向け案件における評価項目の仕様変更へ迅速に対応し、量産規模の需要確保を目指す
- 光学ガラス熔解設備を転用し生産能力を倍増、また、着色版(黒色)ナノセラム™の開発を再開
- スマートフォンやタブレットの筐体、スマートウォッチ、車載向けなど様々な用途への拡販を推進

進行中の主な案件

	用途	進捗
1	スマートフォン	<ul style="list-style-type: none"> ・筐体向けとして、中国の複数のスマートフォンメーカー及び加工メーカーにおける評価試験項目の仕様変更に対応中 ・カメラレンズカバー向けとして、スマートフォンメーカーにおいて評価中
2	ウェアラブル、時計	<ul style="list-style-type: none"> ・腕時計の風防向けとして、アジア等の時計メーカーにおいて販売開始 ・スマートウォッチのケース向けとして評価中
3	車載	<ul style="list-style-type: none"> ・LiDAR用カバーガラス向けとして、国内の自動車部品メーカーにおいて評価中

過去の経緯

	売上高 (百万円)	概況
16/10期	僅少	販売開始と同時に交換レンズプロテクターに採用。スマートフォン向けの試作引き合いも増加。
17/10期	100	スマートフォンアクセサリ(液晶保護ガラスフィルム)に採用。スマートフォンカバーガラスへの採用期待を背景に期首予想22億円を見込むも、商流構築に苦戦。スマートフォン筐体向けに着色版のニーズが増加。
18/10期	1,400	前期反省を踏まえ、期首時点ではアクセサリ中心の5億円を見込むも、加工性のよさより、スマートフォン筐体向けの試作が進展。他方、着色版は優先度低下。
19/10期	550	スマートフォン筐体への採用を念頭に、期首予想28億円を見込むも、加工メーカーの変更や評価項目の仕様変更により、商流確立が遅延。

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心して快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにする事で、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

Appendix(参考資料)

19/10期業績予想修正の経緯

通期業績

(単位:百万円)

	期首時点 (18/12/13)	1Q時点 (19/03/12)	2Q時点 (19/06/14)	3Q時点 (19/09/11)	実績 (19/12/12)
売上高	27,300	24,600	24,600	23,700	23,407
光事業	15,800	15,300	15,100	14,600	14,205
光学プレス品	13,900	13,000	12,800	12,100	11,636
光学ブロック品	1,900	2,300	2,300	2,500	2,569
エレクトロニクス事業	11,500	9,300	9,500	9,100	9,201
特殊ガラス	8,000	6,000	5,900	5,400	5,352
石英ガラス	3,500	3,300	3,600	3,700	3,848
営業利益	2,800	1,500	1,500	1,300	901
光事業	1,000	800	650	450	82
エレクトロニクス事業	1,800	700	850	850	818
経常利益	2,900	1,700	1,700	1,400	1,146
純利益(親会社株主に帰属)	2,000	600	600	500	466
為替レート 円/1USD	期中平均 110.00	期中平均 110.00	期中平均 110.00	期中平均 110.00	期中平均 109.68
円/1EUR	125.00	125.00	125.00	125.00	123.30
年間配当金(円)	30.00	30.00	30.00	15.00	15.00

四半期推移

(単位:百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	6,735	5,907	5,580	5,184
光事業	3,996	3,491	3,486	3,231
光学プレス品	3,192	2,906	2,854	2,683
光学ブロック品	804	585	631	547
エレクトロニクス事業	2,738	2,415	2,094	1,952
特殊ガラス	1,802	1,388	1,136	1,024
石英ガラス	935	1,026	957	928
営業利益	382	565	268	△315
光事業	352	70	78	△418
エレクトロニクス事業	29	494	190	103
経常利益	321	734	270	△180
純利益(親会社株主に帰属)	△349	497	4	313

商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,606名(単体436名) (2019年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：9,201名 (2019年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

(2019年10月31日時点)

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	営業、マーケティング統括
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術、知的財産統括
取締役(社外)	大熊 右泰	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	内田 省寿	
取締役(社外)	軒名 彰	
常勤監査役	久保田 桂詞	
監査役(社外)	三上 誠一	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	杉田 光義	

大株主

(2019年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
7	オリンパス(株)	400	1.6%
9	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	273	1.1%
9	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	264	1.1%
10	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	157	0.6%

※持株比率は、自己株式1,110千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



- 1935 10月: 小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月: 光学ガラス熔解開始
- 1944 2月: 株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月: 白金坩堝熔解開始
- 1958 4月: ランタンガラス生産開始
- 1961 1月: 連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月: 足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月: オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月: 低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月: Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月: オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月: ステッパ用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月: 高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月: 株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月: 台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月: 紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月: 有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月: 結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月: OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月: 環境対策光学ガラス生産開始
11月: OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月: ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月: 光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月: ISO9001認証取得
- 1999 1月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月: 低光弾性ガラス生産開始
4月: ISO14001認証取得
10月: 真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月: 小原光学(香港)有限公司設立
6月: 大規模連続熔解開始
12月: 小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月: 東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月: ファ이버用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月: 低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月: オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月: 株式会社オハラ・クォーツを連結子会社化
- 2011 3月: 華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月: 台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月: オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCIに搭載
- 2013 5月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月: ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月: 非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月: 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月: リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30°Cで駆動
- 2017 5月: 世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月: NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
8月: 非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月: 極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月: 足柄光学株式会社を解散

主要製品

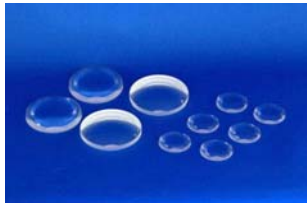
製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)

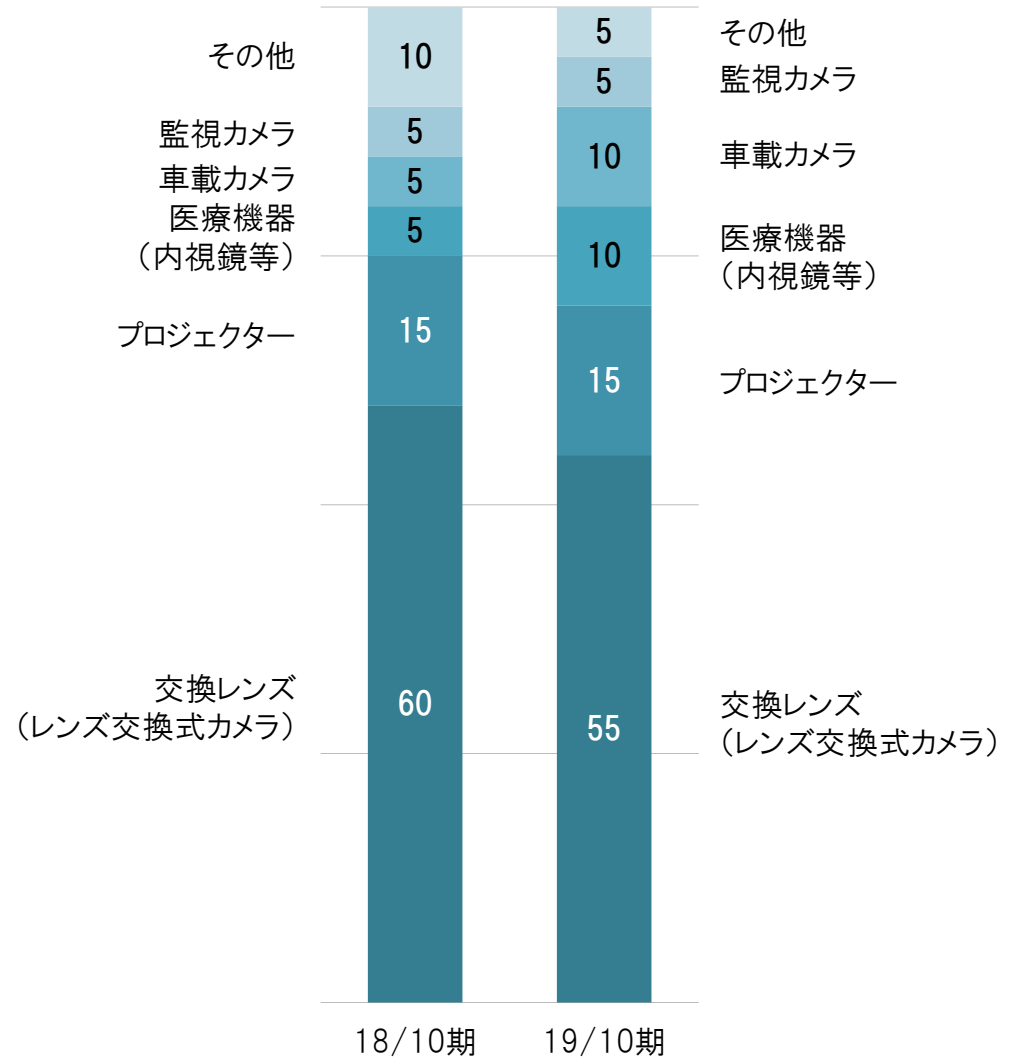


光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

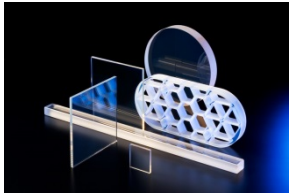


主要製品

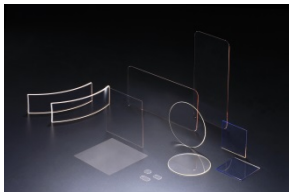
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



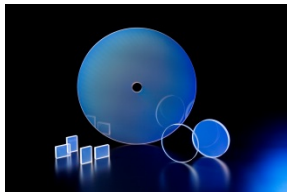
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



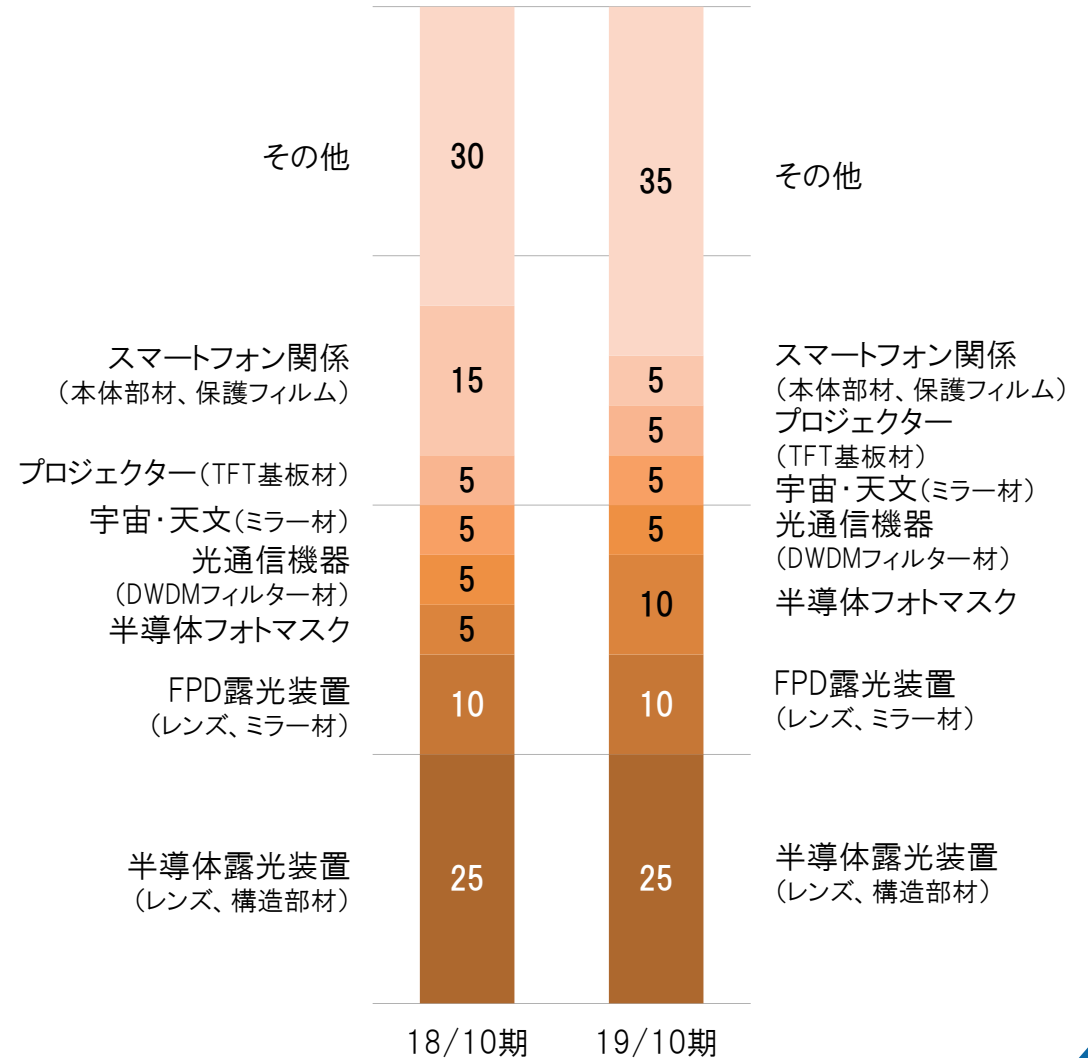
光通信機器向け
ガラス素材
WMST™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



光学ガラスの代表的な製造工程



ひかる素材で、未来をひらく



- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。